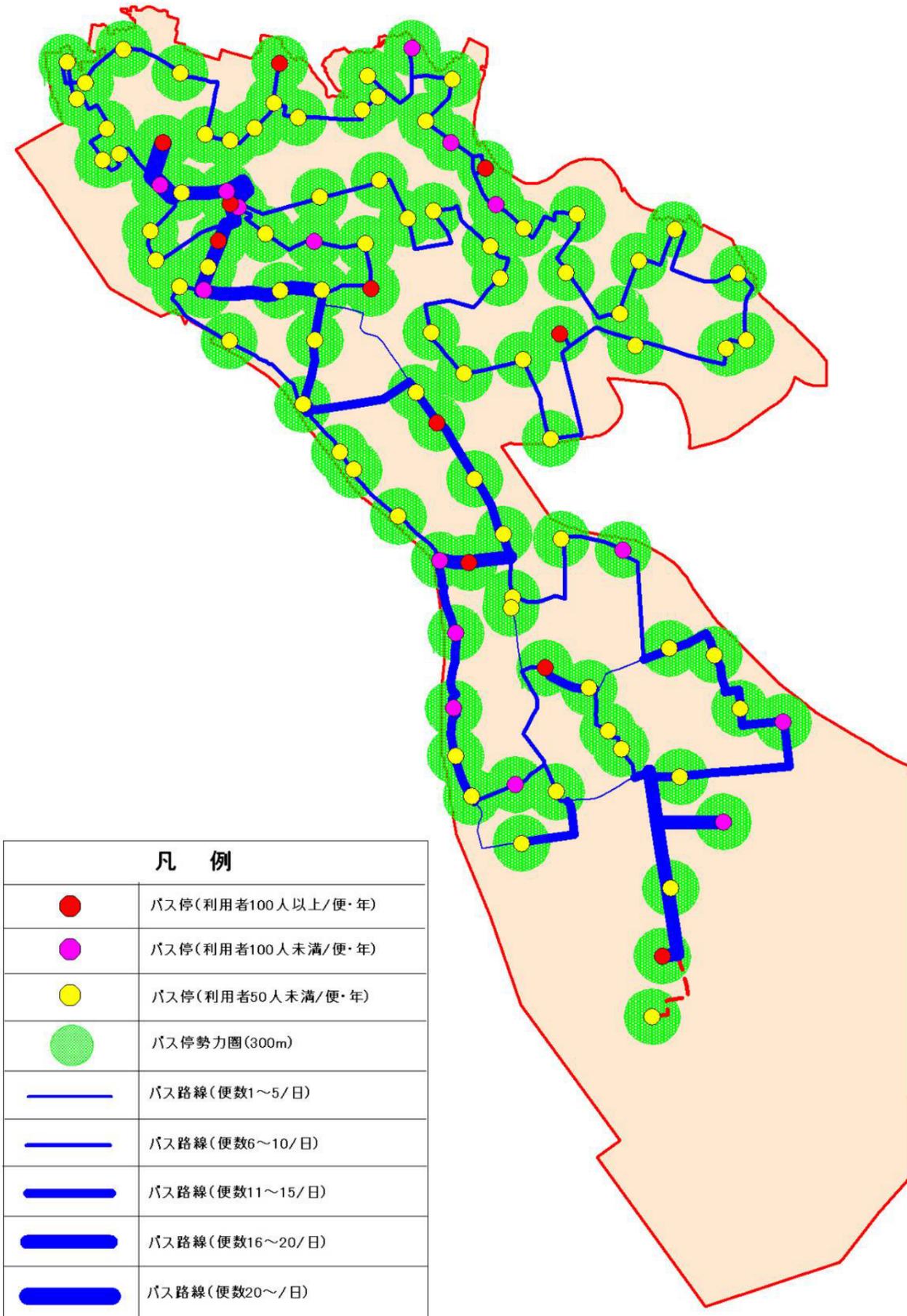


問題点・課題について



◎ 弥富市の地域特性から

- ◆ 高齢化の進展、特に大藤小学校区、栄南小学校区における高齢者率の高まり。
- ◆ 通勤通学の流動状況は、流出 40.6%、流入 31.7%となっており、市外とのつながりが強くなっている。
→高齢者の移動手段の充実への対応、通勤・通学利用を踏まえた検討 (ルート・ダイヤ)

◎ 巡回福祉バスの現状から

- ◆ 近年はルート増設等による運行経費が増大する一方で、利用者数はあまり伸びていない。
→有料化による経費抑制のためのバスサービス向上と利用者増への検討
- ◆ 市内におけるバス停において、利用状況のバラツキが見られる。
- ◆ 路線本数と利用者数について、路線数多いが利用者少ない、路線数少ないが利用者多い、といったアンバランスが見られる。
→利用者の少ないバス停の見直し、ルートの見直し
- ◆ バス停の勢力圏は概ね市内全域をカバーしているが、路線数に偏りが見られる。
- ◆ 特に白鳥小学校区と十四山地区で便数が少なく、大藤小学校区、栄南小学校区では特定のルートに路線数が多くなっている。
→利用者数も踏まえたサービス水準の格差是正の検討

◎ 意識調査結果から

- ◆ 市民の交通行動は、「通勤通学」は「市外」、「その他」は「市内」が多い。
- ◆ 自動車利用(送迎含む)割合は「通勤通学」で約 64%、「その他」で 70%を超えている。
- ◆ 目的別による移動時間帯(通勤通学は朝夕、その他のうち、通院・公共施設は比較的早い時間、買物は日中)、移動の所要時間が異なる。
→目的とターゲットを明確にした戦略(バスルート・ダイヤ編成)の検討
- ◆ 現行の巡回福祉バスについて、「運転手や係員の態度」「安全性」の評価は高いが、「運行時間・便数」「車などに比べた移動時間」「始発・終バス時間」に対する評価が低い。
- ◆ 今後の優先サービスについては、「運行時間・便数」「運行路線数・ルート」の要望が高い。
- ◆ 運賃支払意思としては、100円が 58.4%、200円が 36.3%となっている。
- ◆ 現行の巡回福祉バスについて、優先サービスに対応する改善がなされた場合の利用意向は約 50%が「利用したい」としている。※回答者の現行利用割合は 6.3%。
→適正な料金体系とサービス水準の向上の検討